

【用語】 七日市—富岡市七日市、なお坂口・奥平・岩崎村は吉井町、
他は富岡市 上聞—將軍の耳に入れること 朱印—將軍が押した朱の
印 兩人奉行—ここでは寺社奉行の本多と秋元 執達—上意を承けて
下へ通知すること

【解説】 七日市藩は、加賀藩主前田利家の五男利孝が大坂の陣で功を
挙げ、元和二年（一六一六）十二月上野国甘楽郡内に一万石の領地を与
えられ入封したのが始まりである。以後、前田氏は十一代二五〇年余
り在封し、明治二年（一八六九）十二代利昭の時に廃藩置県を迎えた。
この間、歴代藩主の多くは大坂加番や駿府加番を務めた。

この文書は、延享三年（一七四六）六代前田利理（とじた）の時に幕府から安堵あんど
された領地目録の写しである。領地目録は、一般に將軍から一〇万石
以下の大名へ発給する領地朱印状に添えられたもので、寛文四年（一六
六四）以降は將軍の代替わりごとに出された。この目録は、八代吉宗に
代わって九代家重が延享二年十一月將軍職に就いたこと（訂）から、その継
目安堵として発給された。差出人は寺社奉行の本多紀伊守正珍（まきよし）と秋元
摂津守涼朝（すけとも）である。これによって七日市藩の領域は甘楽郡内の一八カ
村一万石余（正確には一万一四石）が追認され、この石高は明治維新まで
ほとんど変化がなかった。なお、將軍関係の朱印状や領地目録の場合
には書式例が定められていた。